

クアラルンプール滞在記 (2023/2/16-3/3)

クアラルンプール（以下 KL）訪問は 3 年振りである。2011 年のマレーシア長期滞在調査旅行から 10 年経った。新型コロナウイルスが世界に蔓延して漸く世界経済復活の兆しが出てきた。昨年からは欧米ではインフルエンザと同様な対応に変化した。日本もやっと行動制限が緩和された。

2/15 の深夜羽田発マレーシア航空便（JAL 共同運行便）で発ち翌早朝 KL 国際空港に着いた。KL に住民票を移している家族や長期滞在の家族と再会するのが楽しみだった。寒い日本を離れゴルフや食事や市内観光など充実した 16 日間であった。

ただ新型コロナの影響でマレーシア経済（小売り・観光・ホテルなど）は甚大な被害を受けたようだ。馴染みのレストラン、小売り百貨店、マッサージ店が相当閉鎖されていた。露天商はほぼ全滅したようだ。経済は回復途上だがコロナ前に戻るにはまだ時間がかかりそうだ。今回の滞在記はコロナ後のマレーシア滞在録として備忘的感想をまとめた。老後を海外で暮らす事に関心を持つ方々に参考になれば幸いだ。（リングギ（R）＝約 30 円）

1. ゴルフ

マレーシア長期滞在の大きな魅力は、年間を通じて温暖で雨も少ないのでゴルフが楽しめることだ。しかも日本に比べて相当安い。地元に移住したご夫妻と KLGCC (LPGA がマレーシアで開催する名門コース) でプレイした（写真参照）。このご夫妻は週 2 回（年間 100 回以上？）ゴルフを楽しんでいる。因みにこのコースは KL 中心部から車で 15 分の近距離にある。

巨岩のあるテンプラーゴルフ（写真参照）は日本人と韓国人に人気だ。ここは市内中心部から車で 35 分程だ。

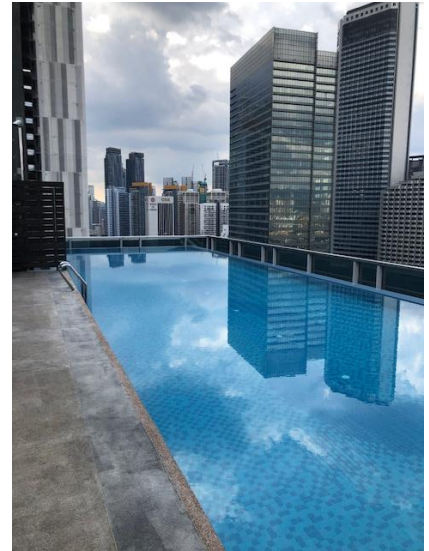


3 枚目の 8 人が倶楽部で団欒している写真は、西に 45 Km 程離れたスルタン・アブドラアジズ・ゴルフクラブだ。このプレイ代は格安で一人 5 千円以下で楽しめる。ホテルからのタクシー料金は 40R だった。



2. 食生活

マレーシア生活の魅力の2番目は食生活だ。華僑・インド・中東欧米などの他民族国家なので世界中の料理が楽しめて概ね安い。中華・イタリア・スペイン・インド・マレー料理がお勧めだ。和食店は高いので殆ど行かない。日本食が恋しくなると伊勢丹やイオンで食材と調味料を調達して自炊することが多い。以下の写真はスペイン料理の名物パエリア店と中華料理で魚の頭でスープを作ったラーメン専門店だ。非常に美味しかった。



3. ホテル事情

定宿はブキビントン地区のパークロイヤル・サービススイートとアンパンパーク地区のサマセットホテルだ（写真参照）。殆ど全てのホテル屋上はプール・ジム・娯楽施設・図書館など共有施設がある。キッチンと洗濯設備が充実している長期滞在型ホテルを愛用している。我が家は通常3週間前後宿泊するが、今回は15日間だった。

サマセットホテルの向かい側に巨大ビルが完成し一層便利になった。近隣に大使館が多いので PAVILION EMBASSY という名称になっている（写真参照）。

グランドフロアーにはスーパーとカフェなど生活関連施設が出来た。サマセットホテルはKL ツインタワーまで徒歩15分の市内中心部だ。部屋の広さは70平米の2LDKだ。地下鉄や高速道路にも近く、郊外へのゴルフに行くにも至便だ。地下鉄が急速に開発されている。KL市街は10Rでほぼ行ける。

尚マレーシアは観光ビザで3か月滞在可能だ。その為冬と夏に長期滞在する家族が多い。月単位や週単位で借りるアパートは郊外に充実している。ゴルフコースに近いサウジャナ地区のアパートは、4LDKで月10万～15万円程度だ。近隣には日本人学校と商業施設が充実している。



4. 長期滞在者の生活

日本人の移住（もしくは長期滞在）家族は相当多い。MM2H 取得者の累計は5千人だが、駐在員と旅行者を入れるとコロナ前は数万人の日本人がいた。今回旅行で友人以外の日本人とホテルやレストランで会わなかった。恐らくコロナ前の日本人は2割程度の印象だった。欧米人と他のアジア人観光客は半分程度に回復して賑わいが戻っている。

長期滞在者は概ねリタイヤした方々でゴルフ愛好家が多い。そして合間に気のいい仲間との食事団欒だ。ゴルフをしない方には、水泳やテニスなどアクティブな施設は整っている。日本人倶楽部にはダンス、語学学習、絵画など同好会の案内が多い。家内は一時滞在中にフランス語の学校に通っていたことがある。友人家族の奥さんには料理研究家もいる。



5. 観光・買い物

殆どのKL 市内観光名所は既に訪問した。複数回行ったのは市内にあるバードパーク、植物園、昆虫博物館（写真参照）、イスラム美術館（写真参照）、歴史博物館、ツインタワー、パビリオン（ブキビントン地区）、ミッドバレー地区のイオン、日本人倶楽部、市内観光案内所、モスクなどだ。

市外の観光地では、KL から400k北西のペナン島（観光地）、200k北のイポー（錫の産地）、300k北のキャメロンハイランド（高原）、400k南のマラッカ（港）などだ。



ペナン島の北にあるランカウイは有名なリゾート地で、サーフィン・ヨット・スキューバダイビング・クルージングが出来る。

買い物は近隣のスーパーが沢山あるので便利だ。ツインタワーに隣接するKLCC パビリオン（次項写真参照）は巨大モールで伊勢丹、書店の紀伊国屋が入居している。



5. MM2H（長期滞在制度）

マレーシアマイセカンドホームビザを通称 MM2H と呼ぶ。この制度は母国のパスポートをベースに 10 年間滞在可能なビザだ。2021 年に制度改革で取得審査基準が厳しくなったが、それまでに取得した外国人にはそれまでの条件で更新可能だとのことだ。日本人は既に 5 千人程度このビザを取得している。2021 年の改革で今後は 5 年間ビザと短縮されたが、多くのビザ取得者の殆どの家族は継続するようだ。我が家がマレーシアを選んだ理由は以下の通りだ。

- ① **年間を通して温かい。雨季でもシャワーだけ（夕方に多い）**
- ② **物価は日本の 1/2（マンスリーマンション家賃は月 10 万円以下）**
- ③ **世界一安いホテル滞在費（70 平米セミスイート 2 ベッド 1 万円/日）**
- ④ **巨大モールで食生活快適（イオンモール、伊勢丹、パビリオンなど）**
- ⑤ **ゴルフ天国（KL 周辺 1 時間圏内 100 カ所以上）**
- ⑥ **花粉がない。但し 9 月にインドネシアからの山焼きの煙害あり**
- ⑦ **地震のない地質構造（しかし台風はある）**
- ⑧ **医療と衛生管理万全（近隣他国と比べレベル高い）**
- ⑨ **長期滞在しても飽きない（現地日本人家族との交流、異文化接触）**
- ⑩ **多様性受容の文化（マレー人 60%と中国人 20%とインド人 10%など）**
- ⑪ **殆どの国民が英語を話す。**
- ⑫ **親日国で日本人は尊敬されている**
- ⑬ **LCC 格安航空の利用が便利（AirAsia 本社）**



尚 MM2H の取得者は現地銀行に口座開設が可能だ。また MM2H ビザ取得条件の一つにマレーシアの銀行にマレーシアリングで 1000 万円相当の定期預金をする必要がある。但し 1 年後にはその半分は定期預金から普通預金か出金することが可能だ。そして株式投資や自動車購入、長期滞在型アパート購入も出来る

6. その他

(1) 日本人長期滞在者の健康への関心は高い。スポーツと食事に留意しているのは我が家も同じだが、サプリメントの知識も豊富だった。特に高齢者に不足するといわれるサプリ（写真参照）は今回紹介頂いたものだ。ビタミンC、Dと亜鉛がミックスしたもので人気商品とのことだ。

帰国後早速試飲している。このサプリの購入価格は30R（千円）だったが、日本のアマゾンで検索したら5倍超の値段だった。内外価格差は相当ある。



(2) 新たな観光名所

市街に高層ビルが目立つようになった。それまではKL ツインタワーが高層で有名だったが最近さらに高層ビル建設が多い。この写真のビルは通信関係のビルだ。更に高いビルも建設中である。



また今回ゴルフした KLGCC はゴルフ以外にプール、ジム、テニスコート、オシャレなレストランなどが完備しており、家族が一日過ごせるようなリゾート施設だった。コロナ禍が収まり、また賑わいある生活に戻る事を期待したい。 以上

